

令和4年度 事務事業マネジメントシート

事務事業No.	2-	5
会計	款	項
一般	2	1 12

事業名	鉄道事業費	課名	政策課
施策	9-3 公共交通網の維持・確保	係名	政策係

1 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	通勤・通学者と高齢者、障がい者等の交通弱者	目的(対象がどのような状態になっているか)	通勤・通学者と障がい者等の交通弱者が、公共交通としての鉄道を利用して、移動ができている。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 北勢線事業運営協議会の設置 北勢線事業運営維持費への補助 三岐線鉄道軌道安全輸送設備等整備事業への補助 三岐線鉄道施設安全対策事業への補助 			

2 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	指標名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	目標方向	令和7年度(目標)
	1 北勢線の乗車人員	1,923,377	2,084,178		人	↑	↗
2	町内鉄道駅の乗車人員(東員駅)	140,466	155,584		人	↑	↗
3	町内鉄道駅の乗車人員(穴太駅)	101,708	107,602		人	↑	↗
4	町内鉄道駅の乗車人員(北勢中央公園口駅)	80,616	85,764		人	↑	↗
5	鉄道(北勢線、三岐線)を利用している町民の割合	-	-		%	→	18
			令和3年度(決算)	令和4年度(決算)	令和5年度(予算)		
全体事業費(千円) A+B			51,924	66,170	70,878		
財源 内訳	直接事業費A	47,964	66,170	70,878			
	うち一般財源	47,891	66,097	70,806			
人件費(千円) B			3,960	0	0		
内訳	一般職員(人・千円)	0.6	3960	0	0		
	臨時職員(人・千円)	0	0	0	0		

3 事務事業の評価、今後の方針及び業務改善<※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方針

個別評価	必要性	今後の必要性	B必要性は変わらない	有効性	目標達成度	B達成できなかった
		町閑与の必要性	D国・県・広域自治体で担うべき	効率性	対象者の適切性	A対象者は適切である
					コストの削減	B削減の余地がややある
総合評価	IV 国・県・広域(町ではなく、国・県・広域自治体に委ねるべき)					

(2) 事務事業の業務改善について

①R4年度の改善計画	北勢線の利用者回帰への取り組みを行いつつ、新たな交通機関のあり方について2市とともに協議を行う。	③取組の課題	コロナ禍の中減った利用者について改善が見られたが、コロナ以前の利用人数を目指す。
②R4年度に実施した取り組み	北勢線の支援とともにそのあり方について今後の方針を協議した。また、利用者回帰に取り組み、想定していた利用人数以上の利用があった。以てコストの削減をすることができた。	④今後の改善計画	JR西日本問題から国はこれまでよりも鉄道に関する支援を進めはじめた。運営協議会において国の動向を把握しつつ国庫補助金を活用し2カ年かけて調査業務を行い、結果を分析しながら今後の方針について方向性を出す。